

遣唐使船のふるさと

—復元作業にかけた職人としての意地と誇り—

- 1 学 年 第7学年〔中期〕
 2 主題名 埋もれた伝統の復元〔4－(9)〕
 3 ねらい
 1400年前の遣唐使船を実際に建造した職人たちや、現代に復元させた職人たちの様子や心情を考
 えることを通して、優れた伝統や技術を継承しようとする態度を育てる。
 4 資料名 「遣唐使船のふるさと」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 遣唐使船について知っていることを発表する。 ○ この船を知っていますか。どこで造られていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 昔の船 遣唐使の使った船 倉橋で見たことがある。 どこで造られたかは知らない。 	○ 遣唐使船の絵を提示し、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「遣唐使船のふるさと」を読んで話し合う。 ○ 遣唐使船の造船技術についてどう思いますか。 ○ 遣唐使船の建造を依頼されたとき、1400年前の職人たちはどんな気持ちだったのでしょうか。 ◎ 地元倉橋の大工たちが難しい復元作業を成し遂げることができたのはなぜでしょう。 ○ 地域の伝統や文化をどのように受け継いでいけばよいのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> どのように造ったのだろう。 1400年前の人が造ったとは思えない。 高度な技術をもっている。 夢を描いていたと思う。 嵐で吹き飛ばされないような頑丈な船を造るぞ。 どの船よりも立派な船を造りたい。 誇らしい。 国のためにがんばって造るぞ。 棟梁としての誇りをもっていた。 昔の人が造ったのだから自分たちもできるという職人としての意地があった。 遣唐使船を復元して、船造りの伝統を伝えたい。 技術を学ぶ。 新しい技術にも昔の人の知恵を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遣唐使船の造船技術に係る補助資料を準備しておきたい。 ○ 時代の中で、国家の発展に寄与しようとした当時の職人の思いを感じ取らせたい。 ○ 造船に携わる職人たちの心情を考えることで、時代を越えた今も昔も変わらない職人たちの心意気に共感させる。 ○ 心のノート(p.126)に記入させるのもよい。
終 末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 呉の造船にはそんな歴史があったのか。 遣唐使船を見に行ってみたい。 呉ですごい技術が開発されていて自慢だ。 造船技術の発達が国の文化の発展に貢献したんだなあ。 	○ 継承された技術が単に現在の造船技術の発展だけでなく、国の発展につながっていることに気付かせさせたい。

6 授業の概要

(1) 主題について

内容項目4-(9)は、主として集団や社会との関わりに関することの「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」ことをねらいとしている。

本自作資料により、「遣唐使」という国家の大事業に使われた船が、自分たちの住む呉市で高い技術のもとに造られたことやそれを復元する技が同市内に住む現代の職人に受け継がれていることを知らせることを通して、これらの伝承やこれらに基づいた新しい文化の創造に貢献しようとする意欲と態度を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 桂浜、長門の造船歴史館との関連

倉橋島の「長門の造船歴史館」では、本資料に出てくる「復元された遣唐使船」を見学したり、遣唐使や倉橋島の歴史について資料を閲覧したりすることができる。また、すぐそばの「桂浜」は万葉集にも詠われた由緒ある地もあり、そのことも併せて紹介したい。

イ 実施時期

国民の祝日である「海の日」等と関連付けながら実施するのもよい。

ウ ねらいにせまるために

遣唐使船の時代から現在に至って日本の造船技術は世界の中では高い水準であることについて、補助資料等によりおさえておきたい。また、呉市には多くの造船所があり、多くの優れた艦艇を造船してきた歴史もあることも終末の説話でふれておきたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

本時の導入では、絵を使って遣唐使船を紹介するが、実はそれは400年後に書かれたもので、本物を描いたものは残っていないことを知らせておく。復元された遣唐使船の写真を提示するのもよい。

イ 発問の工夫

1400年前の遙か遠い昔、遣唐使船を建造した職人たちも、それを復元した現代の職人たちも自分たちの技術に自信と誇りをもっていたものと思われる。彼らの造船に寄せる心情を考えさせながら、本時のねらいにせまらせた。

ウ 終末の工夫

「長門の造船歴史館」や呉市内の造船所やそこで造られた艦艇の写真や映像を紹介することで、昔から継承された技術が現在の造船技術の発展につながっていることに気付かせたい。

(宮原中学校 日野志道)